

小児科この一年

小児科医長 室野晃一

診療スタッフ

平成15年1月から3月までは瀧本副院長、矢野医長、引地医員、土田研修医が診療にあたっていました。4月から矢野医長が札幌市衛生部に転出し、代わって旭川医科大学から室野医長、5月には稚内市立病院へ転出した引地医員に代わって旭川厚生病院から佐藤医員が赴任しました。さらに12月には平成4年から勤めて戴いた瀧本副院長が名寄東病院院長として転出したのに伴って加藤医員が旭川医大より赴任しました。昨年と比べますと土田研修医を除く3人が替わるという大幅なスタッフの異動がありました。

外 来

一般外来は毎日午前・午後とも2診を行っており、主に瀧本、矢野(3月まで)、室野(4月以降)が担当しました。12月以降は室野、佐藤、加藤が担当しています。予防接種外来、1ヶ月健診も従来通り行っています。専門外来は旭川医大小児科より出張していただき、神経外来(沖助教授、7月より田中講師)、内分泌外来(伊藤講師)、心臓外来(津田助手)をそれぞれ月1回行っております。

この1年の外来患者数は平成15年4月～12月の累計では1日平均101人と昨年に比べて減っています。今年度はインフルエンザの予防接種を火曜・木曜の午後に週2回にして行ったのですが、接種者が昨年に比べてひじょうに多く混雑していました。来年度は予約制にする必要があると思われま。また年始にはこれまで同様に休日外来を開きました。

病 棟

病棟は主に引地(4月まで)・佐藤(5月以降)・加藤(12月以降)医員、土田研修医が診療にあたっていました。平成15年の入院患者数は延べ810人(一般小児655人、新生児155人)であり、これまでより少ない数でありました。肺炎・気管支炎208人、喘息・喘息様気管支炎などが93人、クループ、咽頭炎、上気道炎などが116人、胃腸炎86人、熱性痙攣30人などでした。こうした急性疾患のほかに数名の重症神経・筋疾患患者の様々な合併症に対して人工呼吸管理を含む濃厚治療・管理も行っています。

また新生児では5月に佐藤医員が赴任したのを契機にそ

れまでほとんど行われていなかった低出生体重児の人工呼吸管理を3名に行っております。佐藤医員はこうした患者のケアに関して看護師さんたちに昼夜を問わず熱心に教育・指導(色々)しています。今後さらに真のNICUとして充実・拡大し、産婦人科の先生、助産師・看護師さんとの協力のもとに地域周産期母子医療センターにまで発展させることができればと思っています。

カンファレンスなど

入院患者については月曜から金曜まで毎日(火・金曜日は午後1時半より、その他の曜日は夕方より)スタッフ全員によるカンファレンスおよびその後総回診を行っています。また翌月の各医師の予定、学会発表の予行会、小児科診療全般などに関するカンファレンスを月1回(第4水曜日夕方)行っています。

また産婦人科と月1回(第4木曜日夕方)ハイリスク妊娠カンファレンスを行っています。

このほか市立土別総合病院小児科と合同で抄読会を月1回(第3水曜日)に名寄、土別交互の開催で行っています。

研究・教育活動

この1年に関しましてはスタッフの大幅な異動もあって計画的あるいは継続的な研究を行うことが難しく、論文は2編、学会発表は3演題にとどまってしまうました。来年はもっと質・量ともに充実した研究活動をしたいと考えております。

教育に関しましては名寄短大看護学科、上川北部医師会准看護学校において小児科の講義を室野/佐藤が担当しています。

おわりに

本年は4月にそれまで4年間医長を勤められてきた矢野先生の転出、さらに12月には副院長の要職にありながら長年小児科を支えてこられた瀧本先生の転出があつて、小児科として大きな転機の間であったように思います。今後も地域の子供たちの健康維持促進のため今まで以上によい医療を提供できるよう努力していきたいと考えています。